

数学者 桂田芳枝

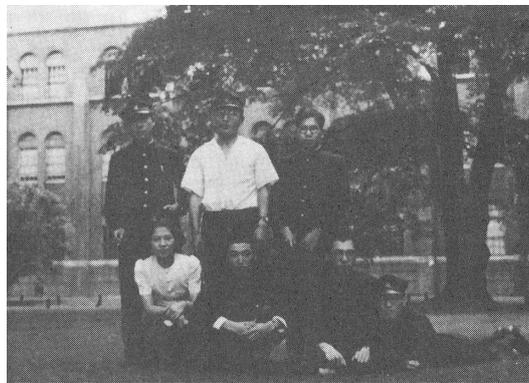
北海道大学大学院理学研究院数学部門（2016年作成）

<https://www2.sci.hokudai.ac.jp/dept/math/outreach/muse>

桂田芳枝 (1911-1980) は、北海道余市郡に生まれました。

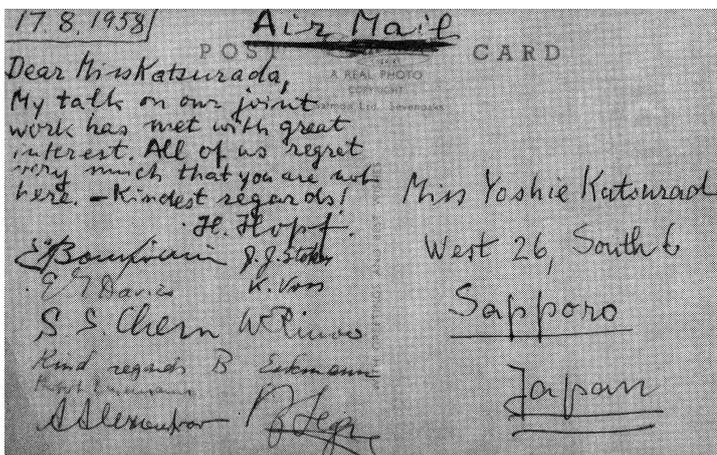
彼女が小樽高等女学校に入学したのは、女子学生の数学の授業が男子学生の半分しかないという時代の話です。本格的に数学を勉強したいという情熱を持ち続け、女学校を卒業して2年後、東京物理学校へ向かいます。女子には聴講生になる道しか開かれておらず、質問も許されないという環境でした。その後も女性に冷たい学校制度のために、北海道帝国大学の事務補助員、東京女子大学などを経ることとなりますが、1940年に北海道帝国大学に入学します。戦争は希望を持った若者たちにも暗い影を落とし、1942年9月に卒業という形をとらざるを得なくなります。大学で数学を勉強したいという希望に対して時代が彼女にどんなに苦勞を強いたか、現在の我々が彼女の生き立ちをみると胸が熱くなることでしょう。

卒業後、すぐに北海道大学理学部数学科助手に採用され、1950年には、「高次空間の非ホロノム系について」の研究で、数学における日本女性初の理学博士となりました。



1942年8月 ([1] 所収)

ハインツ・ホップ (Heinz Hopf, 1894-1971) は、世界的に著名な幾何学者で国際数学連合の会長も務めています。彼女は、「Heinz Hopf 先生の思い出」と題する追悼文の中で、1957年に始まる共同研究の様子とともにホップの偉大な功績と温かな人となりを紹介しています (博物館では共著論文をご覧になれます)。1958年イギリスで開催された国際数学会議では、ホップとの共著「リーマン空間の閉曲面の合同定理」を発表することになっていましたが、彼女は体調を崩して出席できませんでした。会議に出席した各国の著名な数学者による見舞いの寄せ書きの葉書は、彼女が多くから愛されていたことを物語っています。ホップのほか、たとえばシンシエン・チャー (陳省身, 1911-2004) の名前も見ることができます。



左：葉書、右：ホップとともに ([1] 所収)

1967年には河口商次の後任として、旧帝国大学における初の女性教授となり、新聞等にも取り上げられました(博物館では当時の新聞記事をいくつかご覧になれます)。また、熱心に教育に取り組み、多くの学生を育てています。1969年には「大域の微分幾何学特講」と題する講義をしましたが、出席者により丁寧に取られたノートが残っています(最後のページをご覧ください)。

「昭和17年以来、幾何学の研究に精進し、リーマン空間における大域的微分幾何学に関する研究など、その業績は国際的にも高く評価されている。北海道大学において30年間にわたり子弟の教育にあたり、本道の各大学や高等学校へ数多くの教育者を送り出している」という理由で、1973年北海道文化賞を受賞しています。1980年5月10日桂田芳枝は69歳で亡くなりました。

「努力・忍耐・独自の工夫創意なくして開拓はなし得ない」と彼女は書いています。



北海道文化賞贈呈式，チャーレン米札（長谷川和泉氏撮影）

参考資料

[1] 小山心平，－エルムの森に咲いた数学の精－桂田芳枝博士小伝，北海道青少年叢書(17)北国に光を掲げた人々，財団法人北海道科学文化協会(1999)。



[2] 桂田芳枝，Heinz Hopf 先生の思い出，数学セミナー 1972年7月号，日本評論社。

[3] <https://www2.sci.hokudai.ac.jp/dept/math/about/history/katsurada>



